

1 イントロダクション

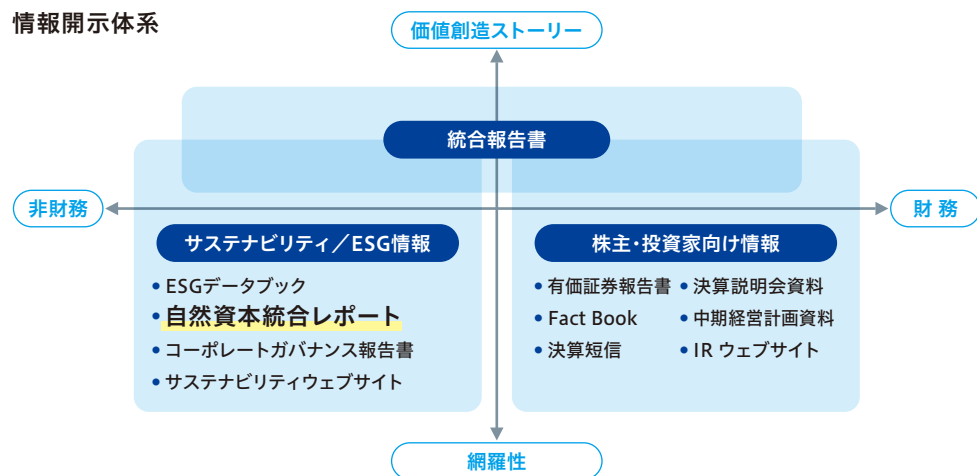
1-1 はじめに

1-1 ① レポートの位置付け

日本製紙グループは、有価証券報告書、統合報告書、ESGデータブックなどでサステナビリティ関連情報を開示しています。

本レポートは、IIRCの統合報告フレームワークで定義された「財務、製造、知的、人的、社会・関係、自然」の6つの資本のうち、自然資本に焦点を当て、当社グループの中長期的な競争力による企業価値向上と社会の持続可能性を支える社会的価値を説明するものです。当社グループが、「気候変動」「自然関連」「資源循環」について、どのようにリスクや機会を評価・管理し、経営戦略や日々の業務に組み入れ、将来に向けた成長につなげているのかをわかりやすいストーリーとして示していきます。また、本レポートは、社外のステークホルダーの方々との対話の基礎資料とするだけでなく、当社グループの従業員が、自然資本と事業活動の関わり合いを理解し、自らの仕事と結び付けて考えるための共通資料として位置付けています。

情報開示体系



1-1 ② レポート発行の背景

2025年に公表された「プラネタリー・ヘルス・チェック2025」では、地球システムの安定性とレジリエンス（自然回復力）を支えるプラネタリー・バウンダリー（地球の限界）において、気候変動や新規化学物質など9つの評価項目のうち、すでに7つの項目で限界点を超過していると報告されています。地球には、外部からの変化を吸収し、安定性を保つ自然回復機能があるため、私たちの生活が直ちに破綻することはありませんが、長期間にわたって負荷が積み重なると、徐々に回復機能が失われ、将来的には回復不可能となります。また、私たちの生活を脅かすこれらの社会的な環境課題は、それぞれが複雑に絡み合いながら深刻化しており、どれかひとつを回復させるだけでは、地球が限界を迎えるのを抑えることはできません。

このような状況を背景として、企業が持続可能な経済活動を行うために、自然資本をどのように捉え、向き合っていくのかをレポートなどで説明し、ステークホルダーとの対話、連携を深めることが求められています。

プラネタリー・バウンダリーについて

